

東海第二発電所	工事計画審査資料
資料番号	補足-40-16 改0
提出年月日	平成30年6月7日

工事計画に係る補足説明資料

安全設備及び重大事故等対処設備が使用される条件の下

における健全性に関する説明書のうち

補足-40-16【重大事故等時に期待するもので重大事故等対処
設備としていない設備の設計方針について】

平成30年6月

日本原子力発電株式会社

申請範囲のうち、重大事故等時に期待している設備で重大事故等対処設備としていない設備については、重大事故等時の環境下でも健全性が確保されることを評価する。対象となる設備及び評価内容を以下に示す。

評価対象 機器・部位	機能	SA 設備と していない理由	評価内容
原子炉圧力容器 スカート	支持構造物	冷却材の流路と ならないため。	SA 時の圧力・温度は、DB 条件（圧力 8.62 MPa、温度：302 °C）に包絡される。DB 条件及び外荷重（DB の死荷重+SA 時のジェット荷重）で応力評価を実施する。
原子炉圧力容器 の基礎ボルト	支持構造物	冷却材の流路と ならないため。	原子炉格納容器の雰囲気温度が DB 条件（171 °C）を超えるため、下記温度及び外荷重（DB の死荷重+SA 時のジェット荷重）にて評価を実施する。 SA (S) : 200 °C SA (L) : 171 °C SA (LL) : 66 °C
原子炉圧力容器 スタビライザ	支持構造物	冷却材の流路と ならないため。	圧力荷重及び温度荷重が作用する構造物でないこと、及び温度条件が DB ≥ SA であるため DB 時の評価に包絡されるため、評価しない。
原子炉格納容器 スタビライザ	支持構造物	冷却材の流路と ならないため。	圧力荷重及び温度荷重が作用する構造物でなく、DB < SA となる温度条件による許容値の低下のみが影響するため、発生応力が SA 温度での許容値内に収まっていることを確認している。
中性子計測 ハウジング	RPV バウンダリ	冷却材の流路と ならないため。	SA 時の圧力・温度は、DB 条件（圧力 8.62 MPa、温度：302 °C）に包絡される。DB 条件で応力評価を実施する。
制御棒駆動機構 ハウジング	RPV バウンダリ	冷却材の流路と ならないため。	SA 時の圧力・温度は、DB 条件（圧力 8.62 MPa、温度：302 °C）に包絡される。DB 条件及び外荷重（DB の死荷重+SA 時のジェット荷重）で応力評価を実施する。
中性子束計測 案内管	炉内構造物	冷却材の流路と ならないため。	RPV バウンダリでないこと、及び、温度及び圧力（差圧）条件が DB ≥ SA であり DB 時の評価に包絡されることから、評価しない。

以上